





源注拾遺卷第三

未摘花

紅葉賀

花真如

葵

賢木

花散里

須磨石

末のむしり

性靈集筑前の王守り

一わらむしり

物次中三回所より末小玉

後と今しかるはりり

河王家無等倫

此後甚非也

○今葉論ハ倫ハ家次第一集  
世雄無等倫妙智無等倫木名



はらへしと家無事給の事おかしら  
徒らしくつらうらうらうらうらうら  
美あつた人むらさきのうらうらうら  
しをりつたおかしらうらうらうら  
はと禪慮の末成百済王某し  
むらうらうらうらうらうらうら  
むらうらうらうらうらうらうら  
むらうらうらうらうらうらうら  
むらうらうらうらうらうらうら  
むらうらうらうらうらうらうら  
むらうらうらうらうらうらうら

とらうらうらうら  
あふらうらうらうらうらうら  
あらうらうらうらうらうら  
延喜式小中納女某世も某女と  
むらうらうらうらうらうらうら  
むらうらうらうらうらうらうら  
むらうらうらうらうらうらうら  
むらうらうらうらうらうらうら  
むらうらうらうらうらうらうら  
むらうらうらうらうらうらうら

孟未橋は父あり

○今東地は後徳くふふらる共是れ大物  
かろと方より、志をこし、此ら孟未橋の  
よりあり、さういふに、かゝる人、は後  
れ、さういふに、さういふに、さういふに、  
さういふに、さういふに、さういふに、  
さういふに、さういふに、さういふに、

○今東地は後徳くふふらる共是れ大物  
かろと方より、志をこし、此ら孟未橋の  
よりあり、さういふに、かゝる人、は後  
れ、さういふに、さういふに、さういふに、  
さういふに、さういふに、さういふに、

郭とて、さういふに、さういふに、さういふに、  
後、さういふに、さういふに、さういふに、  
さういふに、さういふに、さういふに、  
さういふに、さういふに、さういふに、

○今東地は後徳くふふらる共是れ大物  
かろと方より、志をこし、此ら孟未橋の  
よりあり、さういふに、かゝる人、は後  
れ、さういふに、さういふに、さういふに、  
さういふに、さういふに、さういふに、

〜

〜

○今葉の〜

〜

〜

〜

〜

○今梅 和名云氣名苑注云蓋以物

除吹処而六孔之笛也

今按所謂高麗用此字欽和名古万布江

此皆人輩於地から吹出る〜

〜

〜

〜

○今葉万葉集に〜

〜

〜

〜

〜











又和名十七菜蔬を以て云ふ名は

注云草間食曰菜蔬 在陳二音和名菜蔬  
久佐非良

魚鳥やしをいひて小及守りて

菜はしをいひて

一 さいしちのくくくくくく

ら せかひくくくくくくくく

花立ぬつきりちり移り

○今果百式みふくくくくくく

虫字の供也

一 さいしちのくくくくくく

花はちりくくくくくく

おれの度物物トウ中納まふあく師梅云

くくくくくくくくくくくく

おれんくくくくくくくく

一 さいしちのくくくくくく

孟 衡 木 里 里

○今果百式みふくくくくくく

此小凌晨を以てくくくくくく



此の書は、  
〇今東原肥

〇今東原肥

〇今東原肥

〇今東原肥

〇今東原肥

〇今東原肥

〇今東原肥

〇今東原肥

〇今東原肥

〇今東原肥

〇今東原肥

〇今東原肥

〇今東原肥

〇今東原肥

〇今東原肥

〇今東原肥

〇今東原肥

〇今東原肥

一 新編のむ

○今梅雪のむ  
古の雑詩よられかた  
そのむれきしりかたあり

一 新編のむ

○今東正如身  
白文文集

○今東正如身  
白文文集

○今東海乃...  
○今東海乃...  
○今東海乃...

○今東海乃...

○今東海乃...  
○今東海乃...  
○今東海乃...

○今東海乃...

○今東海乃...

○今東海乃...  
○今東海乃...  
○今東海乃...

○今東海乃...  
○今東海乃...  
○今東海乃...

○今東海乃...

○今東海乃...

○今梅和名云鏡臺、弁也立成云 加々美加介

此和名、以杖、昔、り音、よ、ひ、な、れ、り

一々今と松、り、又云、嚴器、俗用、唐櫛

通三字 賀良玖師介

一々今と松、り、又云、嚴器、俗用、唐櫛

○今梅万葉、九云、八年、兎之、片生、乃

時、從、之、此、お、り、末、に、い、か、さ、ら、り、と、い、つ、り

一々今と松、り、又云、嚴器、俗用、唐櫛

○今東神代、此、小、同、熱、と、あ、る、り、後、り









お茶の

一 常しゅうの心しゅうの心

○今東の心しゅうの心しゅうの心

一 常しゅうの心しゅうの心

○今東の心しゅうの心しゅうの心

かたりの心しゅうの心しゅうの心

心しゅうの心しゅうの心しゅうの心

心しゅうの心しゅうの心しゅうの心

心しゅうの心しゅうの心

百十一

心しゅうの心しゅうの心しゅうの心

心しゅうの心しゅうの心しゅうの心

日

心しゅうの心しゅうの心しゅうの心

心しゅうの心しゅうの心しゅうの心

月十三

心しゅうの心しゅうの心しゅうの心

心しゅうの心しゅうの心しゅうの心











一 かしら〜

一 ○兼て〜  
海にわたる舟を〜  
大船は〜  
を〜  
す〜  
り〜

引寄

心〜

り〜

○今兼て〜  
修明家集一

新拾遺

新〜

〜

此〜

一 中〜

引寄

白髪〜

かゝる長しき事なれば

いふはしるは

細  
引書

伴ふまゝあゝの橋

うらやまのせう

○今東之れは物物撰雜

はうりつる漢人

ふしつる

いふはしるは

おしるは

漢人

あはれ

いふはしるは

孟  
始

○今東上

いふはしるは

いふはしるは

いふはしるは

後天の心

一 ぬらむ

○今業 抱仙 養小 推乃 子持 成天

に甘んず

一 ねむる

○今業 日中 紀の 安措 とも

一 ぶらむ

注 ぬらむ

○今業 大入 注 ぬらむ

に多 為 美

一 古 余年

酒 音

孟 ぬらむ

○今業 細 流

ぬらむ

ぬらむ

毛筆

一 けり成り

か成り

字一決ら

黙然不有

○今業此川

いしこの句

とこれ胸

成り







少の行り

古事記 八千之神ノ

御哥云

奴婆多麻能 久路岐美祁斯  
 遠 麻都夫佐尔 登理与曾  
 比 波岐都登理 牟那美流  
 登岐婆 多々藝母 許礼婆  
 布佐波受幣都那美 曾迹  
 奴岐宇色 蕪迹柁理能 阿  
 遠岐美祁斯遠 麻都夫佐连登

理与曾比 波岐都登理  
 牟那美流登岐婆 多々藝母  
 許母布佐波受 幣都那美  
 曾迹奴棄宇色 夜麻賀多尔  
 麻岐斯阿多尼都岐 曾米紀  
 賀斯流迹 斯米許呂母遠  
 麻都夫佐尔 登理与曾比  
 波岐都登理牟那美流登岐  
 波 多々藝母 許斯与呂志云



此申より先帝位受も倍小のり  
同一年小中も 入方兼十八小大伴  
此もあふふ事持より計成のた  
ふ事

あふふ事持より計成のた  
ふ事  
あふふ事持より計成のた  
ふ事  
あふふ事持より計成のた  
ふ事

あふふ事持より計成のた  
ふ事

あふふ事持より計成のた  
ふ事  
あふふ事持より計成のた  
ふ事  
あふふ事持より計成のた  
ふ事

あふふ事持より計成のた  
ふ事

あふふ事持より計成のた  
ふ事  
あふふ事持より計成のた  
ふ事  
あふふ事持より計成のた  
ふ事  
あふふ事持より計成のた  
ふ事

序  
一  
集  
か  
一  
細  
妙  
人

○今東郷  
は  
終  
物  
川  
一  
分  
の  
姓

○今東郷  
は  
終  
物  
川  
一  
分  
の  
姓



好撰急曰 又好走急二

古俗下

いさうはやくはやくはやくはやくはやく

好撰急と人よ句一と句一也

一 句一と句一のあくふ

○今按和名云漢書注云副車 又曾流

万俗云 此度太万比 後來也

一 十し好わら車のそに

○今按同鉄云説文云轂 古禄及漢語 抄云車乃古

之收俗 云筒 輻所一湊也

一 りしあやわらん志はすのせむら

むりもらわららるるまのよんはら

やゝあゝんから 好撰急 後來也

好撰急の條

りしあやわらとけさのあやれ也 けさ抄

此りしあやわらとけさのあやれ也

しあやわらとけさのあやれ也

○今案あやわらとけさのあやれ也

にいはりて改修川若大ト入りて  
りて改修の終りては  
其能信小入りては  
るるあはれ  
一

○今東土佐の地を  
りて改修の終りては  
りて改修の終りては  
りて改修の終りては  
りて改修の終りては  
りて改修の終りては

を  
けり  
い  
一

の愠 老子絶

○今東土佐の地を  
りて改修の終りては  
りて改修の終りては  
りて改修の終りては  
りて改修の終りては  
りて改修の終りては

一 去れぬしにらるる

○今東新勅撰抄紙

舟院小波わらう 下略

東抄花実白を紋下

表の程のよしの成法らむ

去れぬしにらるる

これ世のしるしにあらはれぬ

一 去れぬしにらるる

よれぬしにらるる

○今東旧撰

去れぬしにらるる

去れぬしにらるる

中抄新集

去れぬしにらるる

去れぬしにらるる

○今東新撰

○今東新撰 日本紀

去れぬしにらるる









此方はしむるに  
あまらりたりやあまらりたり  
果しあまらり

一 湯りしむるに

○今葉こしらへたるはしむるに  
付あり但万葉まじり

人言<sup>ヒトコト</sup>年<sup>ツキ</sup>繁<sup>シゲ</sup>三毛<sup>ミケ</sup>人<sup>タビ</sup>髪<sup>カミ</sup>三<sup>ミ</sup>

此こしらへたるはしむるに  
り人のゆかりたるに

一 湯りしむるに  
あまらりたりやあまらりたり  
果しあまらり

○今葉此方ちりあまらり  
あまらり三毛はしむるに  
あまらりたりやあまらり  
あまらりたりやあまらり

くまはかゝるちりほくさの花の香りにて  
ほしほちりすこりのほもれたのちか  
ひしくえもぬる人の吐き非く成いて  
う下へりま——  
一 物ねるふくはくちりちりかちりか  
まのよあて

○今東の歌集のまのよあてのまのよあて  
まのよあてのまのよあて  
まのよあてのまのよあて

小大君集よ 大納言物え

かゝられたるけりたれぬらりて  
さゝんよあてれぬ玉

金糸巻下 出羽舟

あはれしきまのよあてのまのよあて  
まのよあてのまのよあて  
まのよあてのまのよあて



一 沖夷りらちも

の 勤ユスル 御音 日本紀

○今東あまのりまに日と月と  
しるるもあはれに  
しるるもあはれに  
しるるもあはれに

大海方いづれもあはれに

しるるもあはれに

古

物もいづれもあはれに

あはれに

あはれに

あはれに

あはれに

あはれに

あはれに

あはれに

あはれに

あはれに



一 久の去りしころ  
○今葉万葉の位  
玉のころの  
物  
同  
福の  
○今葉万葉の位  
は

一 今葉の  
○今葉万葉の位  
勝殊異  
は





○今按 古今

ふんふんふんふんふんふん  
ふんふんふんふんふんふん

しりしりしりしりしり

○今案玉葉哀傷廿御燕子女王  
終くはふを終くはり

朱雀院御製

ゆふゆふゆふゆふゆふ

ゆふゆふゆふゆふゆふ

一 林さあらしらりふ

○今按 和名云周易説卦云其於木

也為堅 多心

師説多心謂  
奈賀古可達

何ららしり

ゆふゆふゆふゆふゆふ

一 林のゆふゆふゆふゆふ

○今案 百葉歌十三小

ゆふゆふゆふゆふゆふ

ゆふゆふゆふゆふゆふ

一 ねりしけのゆふゆふゆふ

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

○今東地の家の中へおれとていふは  
いふは波をふれといふはたあつたに  
好古家

今東地の家の中へおれとていふは  
いふは波をふれといふはたあつたに

一

○今東地の家の中へおれとていふは  
いふは波をふれといふはたあつたに

和名身三云字書曰浹  
須々反和若

鼻液也文字集略云換

他礼反又他  
細反俗云

波奈  
加無

一  
世とさり

孟  
西心

○今東地の家の中へおれとていふは  
いふは波をふれといふはたあつたに  
好古家



乃多しうねりしおさしう様此後叶  
いさうな

○今業細流は流むし垣りた解ふ  
新んこさひまのりゆ成りたれしゆふた  
りしゆれいおあかりんま

一 又名乃む志流ししりるま

○今業鴛鴦瓦冷霜花白とら  
をあらしし改りるやう

一 又名ししむらりつるやう

○今業うつゆいりりわらぬるま  
んむをしあう

一 ねしけりるゆりこ

○今梅和名乃十四行旅具云蔣  
勤切韻云標カ委反漢語抄云標所謂破  
子加礼比計今按俗所所謂  
破子是破子讀和理古標子中<sub>レ</sub>有障之器也

一 けしゆしはりま

又乃お餅のまかり三月は秋の餅  
一 又おれい教にいらりるやう





長しうらむらひけりけりけりけり  
字乃すしうらむらひけりけりけり  
もしうらむらひけりけりけり  
一みとしけの清きけり

○今梅もしけの夜折もしけ和名云

尔雅云竹施音移字亦作施和名美曾加介懸衣架也

燈も亦多ゆよみとしけ小もん玉板

一りふらりけりけりけりけり

○今東被褥をさるるもさるるハ衣

しうらむらひけりけりけり

一長やまきりけり

らむらひけりけりけり百年の

長やまきりけりけり

○今東地外けりけりけり物白

あむらひけりけりけりけり

を凡雅集候にけりけりけり

らむらひけりけりけりけり

あむらひけりけりけりけり



あはれは横東を以て故は物下

ゆかりの香をよみしるは物下

長きよりのりたるは物下

えり小二葉のふりたるは物下

ほしりたるは物下

しりたるは物下

ゆかりの香をよみしるは物下

長きよりのりたるは物下

えり小二葉のふりたるは物下

ゆかりの香をよみしるは物下

ゆかり

一 分 ちりたるは物下

○ 今 葉 貴 之 葉

ちりたるは物下

ゆかりの香をよみしるは物下

ゆかり

ちりたるは物下

ゆかりの香をよみしるは物下





うゝの信ふの事候哉候しんかおとら  
初はかゝりて候とて候とて候とて候  
とて候とて候とて候とて候とて候  
威勢は候とて候とて候とて候とて候  
——とて候とて候とて候とて候と  
くちとて候とて候とて候とて候と  
うゝおとらとて候とて候とて候と  
うゝおとらとて候とて候とて候と

大補

うゝおとらとて候とて候とて候と  
うゝおとらとて候とて候とて候と

是

張

うゝおとらとて候とて候とて候と  
うゝおとらとて候とて候とて候と

一 后乃市公いら

〇今東大和物とて候とて候とて候と  
たゝちとて候とて候とて候とて候と  
うゝおとらとて候とて候とて候と

おはりのおひめーらーのりおひめーら  
ーやーらーらーらーらーらーらーらー  
えーらーらーらーらーらーらーらー  
ーおひめーらーらーらーらー

一 おはりのおひめーらーらーらーらー

○今葉子かーらーらーらーらーらー  
ーの筋異にありありありありあり  
ーらーらーらーらーらーらー

一 又ーのりおひめーらーらーらー

○今葉子かーらーらーらーらーらー  
ーの筋異にありありありありあり  
ーらーらーらーらーらーらー  
ーらーらーらーらーらーらー  
ーらーらーらーらーらーらー  
ーらーらーらーらーらーらー

一 万葉

去日花の清芽ーらーおはりの  
ーらーらーらーらーらーらー

古今





あつて集りて

仲人あはれ

○今東にわたりて

い

い

い

○今東にわたりて

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い





袖端也見唐韻これ表紙しかく  
は暗排人多

一 ちす

細帳子箋

○今業日本紀小女美成らして  
しり帳のしり帳は帳の  
やれしり帳のしり帳の  
けりの中あし此帳箋のしり  
はるるのしり帳のしり

しり帳のしり帳

一 かんじり  
をいひしり

○今業古伝小 素性

か  
か

一 今業古伝小  
○今業古伝小  
か

一 倭の事ありて...  
一 倭の事ありて...  
一 倭の事ありて...

一 倭の事ありて

○今東 祢<sup>ウチ</sup>細<sup>タレ</sup> 神代記下

一 倭の事ありて

○今東 六帖

一 倭の事ありて

一 倭の事ありて

一 倭の事ありて

一 倭の事ありて

一 倭の事ありて

一 倭の事ありて

○今東 倭の事ありて

一 倭の事ありて

花らる里

一人去れぬ清心つゝ

○今葉古今

長門のむらからぬ花はなは

心つゝいづれりりりり

一さくやのむら

○今葉 細<sup>十</sup>辭 花の風

一松が枝のむら

○今葉 花の風 葉の風

義之と申すはちこれ其の中

の事なり

同 おはしこれ後

者なり

一 歩

と ち

○今

五百

の保

信

い

郭

お

此

は

保

つ

あ

一 〇今東北川

〇今東北川  
〇今東北川

〇今東北川  
〇今東北川

〇今東北川  
〇今東北川

〇今東北川

一 〇今東北川

〇今東北川

〇今東北川

〇今東北川

〇今東北川

〇今東北川

〇今東北川

〇今東北川

一 〇今東北川

〇今東北川



○今梅 病小後から黄之秋葉に

よ

有に

一

○今葉 東西 日本地

一

○今葉 冬

から

から

から

一

○今葉 秋

から

から

一

から

から

一



○今東の...  
...  
...

○今東の...  
...

○今東の...  
...

○今東の...  
...

○今東の...  
...

○今東の...  
...

○今東の...  
...

○今東の...  
...

○今東の...  
...

○今東の...  
...

○今東の...  
...

○今東の...  
...

○今東の...  
...

○今東の...  
...

○今東の...  
...

○今東の...  
...



此ゆへにゆりらるるあり矢引  
こちから舟のりらりりりり  
ふゆへにふあともむりりりりり  
しりりりりりりりりりりりり

一 分 ねるーしりりり

○今東はふふふふふふふふふふ  
難しうしりりりりりりりりりり  
定家らのしりりりりりりりりりり  
しりりりりりりりりりりりり

○今東は河本橋へんんをいしりりりり  
ねき果難ふふ ぬ物

久しうのりりりりりりりりりり  
ふふふふふふふふふふふふ

おれらふふふふふふふふふふ イアセヤリケリ 持守奉る

ふふふふふふふふふふふふ 沈持  
ふふふふふふふふふふふふ

しりりりりりりりりりりりり

○今東はふふふ

ひまわりをのりてゆく  
まはるるまはるる  
此方去はりてゆく  
ゆきゆく

一 歩去はりてゆく  
○今果はゆき

秋のそよ風をゆく  
二秋のそよ風をゆく  
此方去はりてゆく

はねてゆく

はねてゆく

はねてゆく

はねてゆく

はねてゆく

はねてゆく

はねてゆく

はねてゆく

はねてゆく

~~~~~

支本 支入 支

純位

神乃 浦乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

○今 東 物 白 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

○今 東 徐 シメヤカ 日本 比 深 日 洗 日

一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃



一 世にありあけの心はしるるに  
○今東坡物より乃老はるる  
にしかる小春の月つげらるる  
わらわらと笑ふ  
一 清く小春の月つげらるる  
らるる

○今葉のけしき入見に  
一 一はつとゆきかきあつと  
つと

○今按本朝文粹才士重陽後朝  
同賦秋雁槽聲來應

製詩序菅原云秋雁者月令之賓  
也槽聲者風窓之聽也觸物以感非  
來鏡湖之波馳心以思只望銀漢之  
岸又後江相公同賦寒鴈識秋天應  
製詩序云急響似機暗破嬌園之睡  
寒聲亂槽忽伴漁舟之遊  
一 初いひまるるやいの

今集の序文

○今集の序文は、小族の成り立ちを  
述べて、その歴史を語り、  
大族の

功績を述べて、

その歴史を語り、

その歴史を語り、

その歴史を語り、

の考辭 日本紀

○今集 日本紀

その歴史を語り、

その歴史を語り、

その歴史を語り、

○今集 日本紀

その歴史を語り、

その歴史を語り、

○今集 日本紀

その歴史を語り、



くわいしつてゆふ

孟若之痛

○今東屋一痛してわら

いしつてぎくわらさかたのり

○今林

いしつてあつてあつて

○今東 若盛集

すはつゆふらつてあつてあつて

いしつてあつてあつて

くわいあつてあつてあつてあつて

あつてあつて

○今林和名才十五葉名苑之園一云

療野跡 四聲才字苑之園 贈及和名久佐

葛葉藏也

いしつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて







あはれとちかき

あはれとちかき

あはれとちかき

あはれとちかき

あはれとちかき

あはれとちかき

あはれとちかき

あはれとちかき

あはれとちかき

○今葉百七

あはれとちかき

あはれとちかき

一 神ありてしり

○今東ヒカリ 魁ヒラメク 日本ニ 純ニ

一 かくもす小治さゆらゆかしく

はるひゆきふ

○今按日本紀第九神功皇后純云

新羅之建國以來未嘗聞海水

凌國若天運盡一國為海乎



